

Net Work Report FORWARD

ネットワークレポート
「フォワード」 第46号
for working together

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14(エルおおさか4F)

TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256

http://www.workwith.or.jp/
E-mail:o-isc@onyx.dti.ne.jp

発行人/江口 敬一

今号のごあいさつ

「春を待つ」

代表理事 江口 敬一

厳しい寒さで始まった2013年も、早いもので2月下旬となり、梅の開花ニュースが聞かれる頃となりました。季節の春はもうすぐですが、社会情勢の春はまだ先のようにです。

政権交代等大きな変化がありましたが、不確実感は払拭されません。先月再任されたオバマ大統領就任演説の「終わりのない旅を続けなければならない」が象徴的ですが、4年前の確固たる自信と信念が、大統領をして揺らいでいることを感じます。我々是不確実な時代に置かれていることを自覚しなければいけないと存じます。その中であって、山中伸弥京都大学教授のノーベル賞受賞とその後の言動やお人柄は、我々に努力した人はいつか報われるという生き方の原点を再認識させていただいた快挙でした。私の住む東大阪市生まれということもあり親しみを感じていますが「成功するには、その前に平均して9回は失敗はしないとまくいかない。振り返って人生全体でもそうだ。失敗すればする程幸運が来る」や、受賞式後の「メダルをもう見ることもないと思う。ノーベル賞は私にとって過去になった。これからは一科学者としてなすべきことを粛々とやりたい」という山中さんの謙虚さと使命感の強さは、多くの難病で苦しむ人たちは基より人類全体の未来に希望を与え、人への信頼と自信を再確認させてくれました。私共ネットワークも17年前に在宅となっている障がいのある人に実習の場を提供し、働くことによって希望の道を歩んでいただけのお手伝いをとの思いで結成され、やがて障がい者インターンシップが始まりNPO法人となりました。その後、インターンシップは国のトライアル雇用制度や委託訓練のモデルとなり、ジョブコーチ養成研修の開講、障がい者就業・生活支援センターも設置され、就労移行支

援事業所も加えま
すと就労支援を取
り巻く環境は、設
立時に比して覚醒
の感があります。
最近では精神障が
いのある人や発達
障がいのある人の
就労支援も始ま



り、障がいのある人の就労についての社会環境が大きく変化しているなかで、ネットワークの使命や役割を再確認する時を迎えております。昨年来次世代を担う役員の方々が、これからのネットワークの方向性について真剣に討議してくれています。継続していくもの、他機関に引き渡していくものを精査しながら、大阪障害者雇用支援ネットワークでなければできないものを、是非とも加えていただければ幸いです。会員の皆様からのご要望、ご意見等がございましたらよろしくご意見申し上げます。

社会問題を解決していく手段としてのNPO法人は、今全国に45,000程ありますが、事業収入を財政難の行政からの委託事業に支えられている法人が大多数を占め、財政的に苦しい状況にあります。本来は行政のみでは解決の難しい社会問題を、民間活力によりビジネス的手法で解決していくのがNPOの大きな役割の一つとなっていますが、現実はなかなか思うように運営されておりません。当ネットワークも例外ではありません。先行きが不確実な時代ですが、会員の皆様のお知恵も拝借し、ネットワークの新しい方向性が打ち出せる1年にしたいと存じます。

今年もよろしくご支援ご協力の程、お願い申し上げます。

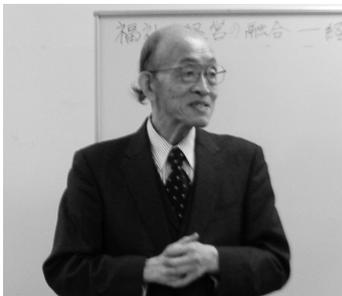
(1月定例会報告)**「福祉と経営の融合」～経営パラリンピックを通して見えるもの**

事務局 森 悟子

1月の定例会は、「経営パラリンピック」でおなじみの大阪成蹊大学山本先生にお越しいただき、講演をお願いしました。その時の様子をご報告します。

○山本先生のプロフィール

松下電器産業株(現パナソニック株)の経理部門で35年勤務。長年経営に携わってきた。また、パソコンを使ったネット



▲講演する山本先生

ワークシステムの構築に関する業務にも関わっていた。「経営」と「情報」で分かる人がほしいとのオファーがあり、京都産業大学を経て大阪成蹊大学現代情報学部教授に就任する。

「ケンちゃん先生」との愛称で親しまれ、松下幸之助哲学を基盤にしたゼミや講義は学生にも人気。ゼミ生の就職率もとても高い。その一方で「ケンちゃん先生の経営塾」として無料で経営相談にも応じている。

そのゼミや講義の基本となる「松下幸之助哲学」における「経営」とは何か、そこからお話をいただく。

○「経営」とは何か

ここで言う「経営」とは、いわゆる学者が言う経営とは違い、会社だけでなくすべての事柄(個人や組織)にも当てはまることである。

「経」とは「お経」の「経」で元々「縦糸」を意味し、過去・現在・未来をつなぐ普遍の真

理をさす。普遍の真理とは「人間はお互い生かしかされる関係にある」ことであり、「自分から積極的に人の役に立つ生き方が求められる」という意味が「経」には込められている。

「営」は「力を尽くして励む、そして変化・成長する」という意味。

では「経営」とは何か。人間社会が複雑多岐な相互依存の関係性の元に成り立っていることに気づき、お互いに協力し世の中に貢献することであり、「世の中の役にたつように励み、自分自身も変化・成長する」ことを指す。それは会社に限らず、個人、家庭、その他あらゆる組織の基本となるものである。

例えば、商売人がお客様を喜ばせることをすると、お客はそれを喜ぶ。お客様が喜んでいて所を見てまた商売人も喜ぶ。それを見てまた…という「喜ばれて喜ぶ」という循環が生まれ失敗しない。だから世のため人のためになる人や組織は絶対に持続し繁栄・成長する。

「喜ばれて喜ぶ」関係は宇宙の真理であり、根源である。

そのような「経営」精神はどこからくるのか、それは人の心の内外に存在している。人はもともと誰でも何かに共感したり、人を喜ばせたり、問題を解決したいという欲求がある。その欲求に対して何らかのきっかけがあり、「ほっとけない」と「覚悟」を決めたとき「経営」とつながる。

「経営」はみずからの心意気と覚悟でみずから貫くものであり、物欲等にあるのではない。また、貫き通すには常に新たな試練があるし、

馬鹿を見ることもあるが、それらを乗り越えていかなければならない。

ただ、常にそのようなことを考えるのもしんどいので、学生には好きなことを考えても良いが、1割は人のために役に立つことを考えるように指導している。

「経営」のあるときとないときの比較をしてみる。経営のある時の人生は思いやりにあふれ自責の念があり人間的な成長につながるが、ないときは独善的で自分本位なものとなり、相互信頼の意識がなくなる。企業経営で考えたときも、当然、私利私欲を前提としたものは衰退や崩壊を招くが、そのような企業も多い。また、現在は競争社会を前提としたグローバル型経営が中心だが共生社会を前提としたコミュニティ型経営（例：福祉事業）を通してみると、国内の産業・雇用の空洞化などの課題が見える。コミュニティ型経営の視点も取り入れた考え方が必要と思われる。

○どこでもゼミ

山本ゼミは別名「どこでもゼミ」であるが、「経営」を学ぶのは学校の中だけではなく、どこに行っても勉強ができるからである。ゼミでは学生が主体であり、知識ではなく「知恵」を身につけ役に立つ人となるよう学生の可能性を引き出す。教育の役割は生徒の人間性を高める（「経営」のわかる人間となる）ことであり、学生に



▲山本先生の講演に聞き入る会員

ある「思考力・表現力・実行力」を引き出し育てるのである。それらを身につけることでどこにでも就職はできる。

思考力・表現力・実行力を引き出すためには、「経営」を感動とともに学ぶことであり、実体験として接することの大切さがある。

経営パラリンピックも、13年前の琴の浦福祉工場（重度身体障害者福祉工場）の見学という実体験からの感動から始まった。

○経営パラリンピックの誕生

福祉工場の見学において、初めは経営から福祉は排除されるのではとの思いがあったが、工場見学をするうちに、働く障害者のモチベーションの高さや経営成果等から「福祉と経営の融合」が成り立つのではないかと実感した。

またそんな時に「小倉昌男の福祉革命」を知り、「福祉と経営の融合」の志にとっても感銘を受け、その勢いで広島県三原市のスワンベーカーリーを訪問。そこでも感銘を受け「経営パラリンピック」の構想が芽生える。

「経営パラリンピック」はゼミの学生や先生が受けた感動を自分たちだけのものではなくみんなにも広めていきたい、小さくても何らかの行動を起こして社会の役に立ちたいという思いから考え付く。その考えに公益財団法人ヤマト福祉財団の故小倉昌男理事長も賛同していただき、開催に向けてのバックアップをしていただけることとなる。平成14年9月に第1回の経営パラリンピックの開催にこぎつける。

○経営パラリンピックの実践

「経営パラリンピック」は、福祉事業所等において「喜ばれて喜ぶ」現場を実践されている事業所から知恵や工夫を発表してもらうことにより、参加者同士がお互いに学びあい感動を共有する場としていること。もう一点は、「経営パラリンピック」の運営に学生が主体的にかかわることによって「思考力・表現力・実行力」

を「感動」とともに実践の中から磨いていくことが大きな目的となっている。「感動」とセットであることがポイントである。

ただ、学生だけでなく、応援団として様々な団体や個人にも応援をしてもらい成り立っている。

毎年9月、昨年で11回開催をしているが、述べ61事業所の発表、84事業所のバザー出展があり、3,000名を超える参加があった。参加者のリピート率は7割、あとは口コミでの参加。参加者の方にはいつも笑顔で帰ってもらっている。学生が真剣に取り組んでいる姿勢を応援してくれている結果ではないかと思う。

11回の開催の中たくさんの福祉事業所や個人にも発表をしていただいた。ダウン症がありながらも自分の中の可能性を活かして働く「江口裕介さん」、保護者を中心とした会から発足し、地域に根付いた事業を展開する「はまゆう作業所」など、感動を受ける事例がたくさんあり、「経営パラリンピック」に携わった学生は、顔つきが変わった。関わった学生も117名、訪問先も300ヶ所にのぼる。

○実践から生まれたもの

昨年の経営パラリンピックで発表してもらった事例で、山本ゼミOB 3名で立ち上げた「八百鮮」という野菜と鮮魚の専門店があり、「経営

パラリンピック」の新たな社会貢献の方向性が見えた事例であった。

「八百鮮」は操業2年目で2店舗目を設け、社員5名、アルバイト6名のうち、障害者4名を雇用しており、現在月商1,200万円を超えている。

卒業生たちは一度企業に就職をするが、「経営パラリンピック」で味わった「経営」についての感動を忘れることができず、「世のため人のためになる事業は絶対に持続して繁栄する」、「人間は誰でも無限の可能性を持っている」という思いのもと起業した。

「すべてはお客様のために」として地域のお客様を喜ばせることを主眼とし、その日の売れ行きをみて仕入れを決めており、毎日売り切りをしている。また、仕入れ担当が対面販売を行うことでプロの目を見た商品説明をし、心のこもったサービスを提供している。

社員が若いイケメンということもあり、地元の主婦に好評でリピーター率は9割に上る。

「ライバルは他店ではなくお客様の心」として現状に満足せず、質の向上を目指している。「喜ばれて喜ぶ」を実践し真心をこめて打ち込む姿が、地域の人たちの評価を得られていると思われ、「経営パラリンピック」以降も「経営」に対する「感動」が続いている。

野菜鮮魚専門店『八尾鮮』

1号店：平成22年12月1日 大阪市福島区新橋筋商店街にて開店

2号店：平成24年3月16日 大阪市此花区春日出商店街にて開店



インターンシップサロン活動

～おこしかフェへようこそ～

障害者インターンシップの登録者を中心に、登録後のフォローアップの一環で開催している『おこしかフェ』。障害のある人もない人も、一緒にのんびりしたり、話し合ったり、ゲームなどで交流するサロン活動です。

今回は、馬とのふれあいを通じて、ひきこもりの方の支援や若者の就労支援のお手伝いをしている「ホースフレンズ枚方セラピー牧場」を訪ねました。

事務局 伊藤 裕美

天高く馬肥ゆる秋・晴れの11月3日（土）、京阪枚方駅から徒歩5分のところにある都会のオアシス「ホース・フレンズ枚方セラピー牧場」に行きました。

到着後、牧場スタッフの施設案内・注意事項等を聞き、グループ毎に分かれて、申し込んだひき馬乗馬（牧場スタッフに馬を曳いてもらいながら乗馬）・ポニーとの散歩・ポニーのブラッシング・にんじんあげをしました。

ひき馬乗馬を希望したTさんは、元競走馬の高さにびっくり、サポートスタッフの「こわい時はやめましょう」の声かけで、ポニーとお散歩をしました。指示通りに動く馬の様子に感動し、少し緊張した様子でしたが嬉しそうでした。ゆったりと時間が過ぎていきます。乗馬が大好きで経験のあるOさんは、颯爽とひき馬乗馬を楽しみ、ポニーのブラッシングも丁寧にこなしていました。

初めてひき馬に乗ったMさんは、牧場スタッフに、乗るところからの丁寧なサポートを受けて無事一周しました。「あそこにいる馬はアリスだよ」とすっかり馬たちの名前を覚えていました。又、以前からのやりたかったことだったKさんはお知り合い、家族で参加され、「前

からの念願がかなったね」とニコニコ顔でした。

最後は、参加者全員でお世話になった馬やポニーにニンジンあげをして感謝の気持ちで、ふれあいました。馬やポニーの澄んだ大きな目は優しく癒してくれました。

昼食は、それぞれ持参のお弁当に舌鼓。

役目を無事終えて、ゆったり放牧中の馬たちを真近に見ながらお弁当を広げたSさん親子、1歳のお子さんが「ワンワン」と大喜び。食後、馬たちのそばに集まり午前中の話に花が咲きほっこりとなりました。最後に「みんなで写真を撮りたい」「馬と一緒に撮りたい」と要望があり、牧場スタッフのご協力でポニーと一緒に記念撮影をしました。



▲ポニーをブラッシングする様子

今回お世話になった所

NPO法人 ホース・フレンズ事務局
 ホース・フレンズ枚方セラピー牧場
 住 所 〒573-1191 枚方市新町2-1
 T E L : 072-841-1301
 開場時間：10:00～16:00
 定 休 日：月曜日、木曜日
 U R L : <http://www.horse-friends.org/>



▲スタッフのサポートでひき馬乗馬を楽しむ様子

おおさか障がい者の雇用を支える企業ネット会議

OSK企業ネットフォーラム全体会

講演「日本で一番大切にしたい会社の経営」 

株式会社きものブレイン 取締役副社長 岡元 眞弓氏

株式会社きものブレイン

新潟県十日町市に本社工場を置かれ、きものに携わる幅広い事業を展開されておられます。現在の従業員数は230名、うち障害者25名。過去5年以上にわたり人員整理をされずに黒字経営されておられます。また、社員教育も大切にされつつ積極的な障害者雇用も続けてこられました。これらの事が評価され、2012年3月に第2回「日本で一番大切にしたい会社」大賞 審査委員会特別賞を受賞された注目の企業です。



開催日程 平成25年3月6日(水) 午後1時20分～午後4時30分
 会場 大阪市中央区北浜東3-14 エル・おおさか 6階606
 申込定員 100名
 受講料 無料
 申込締切 3月1日(金)
 主催 特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
 TEL 06-6949-0350
 共催 大阪府 ハートフル事業所ネットワーク事業

スケジュール

12:30～	受付開始	
13:20～13:35	開講挨拶 OSK企業ネットフォーラムの活動状況の報告	大阪障害者雇用支援ネットワーク 代表理事 江口敬一氏
13:35～13:40	講師紹介	大阪障害者雇用支援ネットワーク 理事 應武 善郎氏
13:40～14:40	【講演】 「日本で一番大切にしたい会社の経営」	株式会社きものブレイン 取締役副社長 岡元 眞弓氏
14:40～15:40	グループに分かれバズセッション	
15:50～16:20	岡元副社長への質疑応答	
16:20～16:30	閉講挨拶	大阪障害者雇用支援ネットワーク 理事 矢野 孝氏

OSK企業ネットフォーラムのテーマ：「企業と福祉の連携」

OSK企業ネットでは大阪府を東西南北4ブロックに分け、各地域で特色ある企業ネットフォーラムを開催してきました。日頃はブロックごとの取り組みになりますが、年に1度は会員が一同に会し、全体会を開催しております。このたびは講演会を企画しました。OSK企業ネットフォーラムのテーマの通り、企業間だけでなく、福祉事業所、就労支援機関、学校とのつながりもますます深まってきたのではないかと思います。今年度の全体会では、株式会社きものブレインの取締役副社長 岡元眞弓 様にお越し頂き、会社での障害者雇用の取り組みや、経営にあたっての思いをお話いただきたいと思います。参加者の皆様には、岡元様のお話を受けて、質疑応答の時間も設けております。是非、ご参加ください。

OSK企業ネットフォーラムの目的

- 1) 障害者雇用担当者及びサポート役としての不安や悩みを解消し、自信を持ってもらう。
- 2) 新たに起きている雇用問題に対するヒントや解決方法を学び合う。
- 3) 各企業における障害者雇用について具体的な情報交流を行ない、お互いに相談相手の出会い（地域での個々のネットワーク）づくりの場とする。



問合せ先

特定非営利活動法人 大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14 エル・おおさか 4F
TEL 06-6949-0350 FAX 06-6949-1256 E-mail o-isc@onyx.dti.ne.jp

NPO法人 大阪障害者雇用支援ネットワーク 会員募集中

「特定非営利法人 大阪障害者雇用支援ネットワーク」は、障害のある人の就労支援と雇用拡大を目的に活動を行っています。一緒に、障害のある人への働くチャンスと働き続けられる環境づくりに取り組んでいきましょう！

- ◆会員になっていただいた方を対象に、会員を対象とした各種講演会の参加や障害者雇用に関する情報などを提供いたします
- ◆積極的に事業参加をご希望される方は、各事業部にご参画していただくことも出来ます。

*当法人の目的に賛同しご入会をご希望される方は、個人・団体どなたでも正会員または賛助会員になることが出来ます。

(詳しくは、ホームページ <http://www.workwith.or.jp/index.html> をご参照ください)

お電話によるお問い合わせ TEL 06-6949-0350

<短期職業訓練インターンシップ実施状況 (H24.12.31)>

I. インターンシップ登録及び実施状況

実施中及び実施済件数	74名
修了数	54名
中退数	10名
(うち雇用移行のための中退数)	(1名)
実施中数	10名
実施予定および調整中	7名
登録取消	11名
IS 利用登録人数合計	92名

II. インターンシップ相談者状況

<全体>

		身体				知的	精神	その他	計
		聴覚	視覚	肢体	内部				
実施	修了者数	10	0	0	0	16	27	1	54
	中退者数	0	0	0	0	3	6	1	10
	実施中数	0	0	0	0	5	5	0	10
小計		10	0	0	0	24	38	2	74
実施予定・調整中		0	0	0	0	2	5	0	7
登録取消		0	0	2	0	2	7	0	11
合計		10	0	2	0	28	50	2	92

III. 就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	7	7	11	0	25
障害種別就職率	70%	29%	29%	0%	34%

※就職状況については一部確認が取れていない所があるため、数に反映できていない可能性があります。

H24年度 インターンシップグラフ

